

# 発達障害への適切な対応を考える

母親・医師からの報告と提言

2017年3月から継続している連続セミナー。これまで首都圏で実施し、全国各地から保護者が参加しています。今回は関西で初めての開催。プログラムは、保護者による体験発表と、指導者による解説です。青少年教育に詳しい教育者のお話もあります。

体験発表する母親は、たくさんの患者さんを診療する一人の医師。まったく言葉のなかった息子さんが4歳で「広汎性発達障害」と診断されたあと家庭教育に力を入れ、普通学級（小学校）、特別支援学級（中学校）を通じて学校との信頼関係づくりにも努めました。今春、息子さんは単位制の高校へ進学しました。

「教えればわかるようになる」……。教育・学習の果たす役割とは何か、本当の受容や合理的配慮とは何か、母親／医師の立場から語られます。

日時 ● 2019年6月22日（土）18:30～20:30

（受付開始 18:00～、開場 18:15～）

会場 ● 大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）

7階ホール 大阪市中央区大手前1-3-49 電話 06-6910-8500

定員 ● 500名（対象：保護者、学校関係者、医療関係者、市民など）

参加費（資料代等） ● 1,000円（大人） 500円（学生）

※当日、受付でお支払いください

申し込み ● 氏名・住所・職業・連絡先のほか、(1) お子さまの年齢・学年 (2) 「子育てで困っていること、聞きたいこと」を明記してメールか電話／ファックスで当NPO法人へ

主催 / NPO法人 Education in Ourselves 教育を軸に子どもの成長を考えるフォーラム  
埼玉県さいたま市南区辻5-6-12-408 〒336-0026 TEL&FAX 048-837-6926  
携帯 080-8726-1000  
E-mail info@education-in-ourselves.org https://www.education-in-ourselves.org

共催／株式会社 増進堂・受験研究社

後援／大阪府、大阪市、大阪市教育委員会

お話（体験発表）

## 高校1年生の母親（医師）

幼児期から言葉の遅れや執着行動などがあり困り果てていた両親。「これは大変だ」と年中の11月から子どもへの接し方を変える。就学猶予を受けて、言葉の力を伸ばし、ひらがなの読み書きなどを身につけてから小学校普通学級に入学。中学校より特別支援学級に。式の計算・方程式・英語、漢字の読み書き、聞きとりの読解などの学習を続け、漢検にも挑戦中。今春から単位制の高校で学ぶ。

進行と質疑応答

## 河野俊一さん

エルベテーク代表  
医療法人エルベ理事

1996年、民間の教育機関エルベテーク設立。発達の遅れと課題をもつ子どものためのコースも開設し、現在に至る（川口／青山／ロサンゼルス）。著書に『発達障害の「教える難しさ」を乗り越える』（日本評論社）、『誤解だらけの「発達障害」』『子どもの困った！行動がみるみる直るゴールデンルール』（いずれも新潮社）など。

感想と問題提起

## 吉田景一さん

甲子園短期大学幼児保育学科准教授  
前大阪府立港高等学校校長

保健体育科教諭として3校で21年間勤務。大阪府教育センター、大阪府教育委員会事務局において指導主事、主任指導主事、首席指導主事として教科教育、研修、生徒指導、学校保健、健康・安全教育などに携わる。その後、大阪府スポーツ教育振興財団業務課長、大阪府立桃谷高等学校通信制課程准校長、大阪府立港高等学校を校長を経て、現職。

## 6月22日セミナー参加申込書

2019年 月 日

氏名	職業	(1) お子様の年齢・学年
住所		(2) 子育てで困っていること、聞きたいこと
連絡先（電話・メールなど）		(3) （保護者以外の方）いまの教育・子育てについて感じていること